

# 令和2年度 学校経営

八戸市立市鮫小学校  
校長 横濱 誠一

## 1 教育目標

- ・明るく思いやりのある子
- ・めあてをもって学ぶ子
- ・健康でたくましい子

## 2 努力目標

- ・なかよく助け合う子
- ・よく考え、進んで学習する子
- ・進んでからだをきたえる子

## 3 めざす学校像

### [具体像]

#### (1) 子どもにとって、意欲的に学び活動する楽しい学校

子どもたち同士がつながりあい、自他のよさに気付き、互いによさを発揮しながら根気よく学び生活し、よりよい人生を送ることができる児童が育つ学校

#### (2) 教職員にとって、児童が学び合う質の高い授業が展開される学校

児童がよりよい人生を送ることができる力がつく授業づくりに専門性やよさを発揮し合いながら、組織として協働し教職員が成長する学校

#### (3) 教職員・保護者・地域にとって、教職員・保護者・地域が協働する学校

児童のすこやかな成長のため、教職員、保護者、地域が共に力を合わせ子どもを育てる学校

## 4 学校経営の方針

学校は次の社会を担う子どもたちのためにある。**学校・保護者・地域の私たち大人は子育てのチーム**であり、子どものすこやかな成長への願いを共有し、変化の激しい社会に対応しながら、学校目標が達成されるよう学校経営を推進する。

## 5 学校経営の重点

4の方針を受け重点を下記の3点とする。

### (1) 心の教育の充実

①**すべての教育活動の基礎となる、子どもたちがつながり合う望ましい学級経営、望ましい集団づくりの充実**

②教職員は一つのチームである。「教職員一人一人が全児童の担任」と考え、教職員のコミュニケーションにより、学級学年間の連携を大切に**した協働的な指導体制による生徒指導の充実**

### (2) 確かな学力の育成

①**主体的に課題を解決する学習**をもとに主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善

②生活習慣・学習習慣の徹底

### (3) 幼保小中と家庭地域との連携による教育の充実

①鮫中学区での連絡・連携した教育活動

②教職員・保護者・地域の協働による地域に根ざした教育活動

## 6 教職員チームとしての目的

### 学習指導要領「育成を目指す資質・能力の3つの柱」

- 何を理解しているか 何ができきるか 【知識・技能】
- 理解していること・できることをどう使うか 【思考力・判断力・表現力等】
- どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか 【学びに向かう力・人間性】

これを受け、子どもたちに夢や志をもたせ、

- 努力し身につけた力を用いた人の役に立つ生き方
- 私は周囲の人に貢献する

という人生観を築き、将来にわたってよりよい、そして幸せな人生を送れるようにすることをチームの目的とする。

## 7 本年度の学校目標と重点施策

### よさを生かし共に学びを深める子の育成

#### 【重点施策】

#### (1) 徳：「なかよく助け合う子」の育成

①助け合って取り組む「係活動」「当番活動」「委員会活動」「清掃活動」「縦割り活動」の充実と家庭での「お手伝い」の推奨

→人の役に立つ生き方をさせ、『自己有用感』を育成し自尊感情を高めることで、努力する子を育成する。

#### ②「学級づくり11か条」による望ましい学級経営と集団作り

⇒規範意識の向上と努力する子の育成、学力向上の基礎

#### 個を生かす学級づくり11か条

- ① 学級が子ども一人一人の心のよりどころとなる。
- ② 子ども一人一人の個性や願いを大切に。
- ③ だれにも出番を与え、だれもがリーダーになれる。
- ④ 自由で多様な考え方を大切に。
- ⑤ 間違いやつまずきを大切に。
- ⑥ 創り工夫していく喜びを大切に。
- ⑦ お互いに協力して支え合おう。
- ⑧ 自分には厳しく、相手には思いやりを。
- ⑨ どの子の人権も尊重し、よさ（可能性）を引き出そう。
- ⑩ 集団も個人もひとり立ちできることを目指そう。
- ⑪ 以上のことを、教師自ら身に付ける。人格化する。

- ・あいさつ返事ありがとう →チャレンジファイブ
- ・ふわふわ言葉とさん君 →チャレンジファイブ
- ・子どもたちとつくる学級目標、児童会テーマ
- ・話し合い活動(学級会)の充実
- ・よいところを認め合う時間の確保(一日の振り返り)
- ・「アセス」と児童面談による学級経営の状況の把握

## (2) 知：「よく考え、進んで学習する子」の育成

- ① **かかわり合い学びを深める授業づくり**
  - ・ **主体的に課題を解決する学習の推進**
    - ・ めあてとまとめの整合性
    - ・ 共通したノート指導
    - ・ ペアやグループ等の話し合いによる学び合い
    - ・ 振り返り
- ② **自学の習慣化(予習、復習) → チャレンジファイブ**
  - ・ 学び方ガイド
  - ・ 漢字計算テスト
  - ・ 宿題の提出

## (3) 体：「進んでからだをきたえる子」の育成

- ① **基本的な生活習慣づくり**
  - ・ 目で聞き目を見て話す ⇒ **立腰・生活学習習慣**
  - ・ 早寝早起き朝ご飯
  - ・ 生活習慣と家庭学習習慣の確立 → **チャレンジファイブ**
  - ・ すきま読書(手元に1冊)と家庭読書 → **チャレンジファイブ**
  - ・ 静かな廊下歩行 → **チャレンジファイブ**
- ② **めあてを決めて取り組む体力づくり**
  - ・ 体育授業の工夫(場づくり、学習カード等)
  - ・ マラソン・なわとび等

## 8 具体的な子ども像

学校目標と重点施策を受けて具体的な子ども像を下記とする。

- |                  |                            |
|------------------|----------------------------|
| 「あ」いさつ返事ありがとう    | → <b>生活習慣</b>              |
| 「す」すんで人の役に立つ     | → <b>自己有用感</b>             |
| 「も」ちろん目で聞き目を見て話す | → <b>立腰・生活学習習慣</b>         |
| 「よ」いところ          | → <b>振り返り(自分や友達のよさの発見)</b> |
| 「い」のち大切に         | → <b>思いやりの心</b>            |
| 「こ」つつ努力          | → <b>努力し続ける</b>            |

## 9 その他

### (1) 学校運営の指針

- ア 教育活動の判断基準を子どもにおき、深い子ども理解により、愛情と熱意をもって指導にあたる。
- イ 学校は相互の信頼関係を基盤にし、厳しさの中にも温かさがあり、互いに力を発揮して高め合い磨き合う場とする。
- ウ 子どもに学び方を教え身につかせることで、初めて行動するという意識を指導する。
- エ 教師自ら研鑽に励み、専門職としての指導技術と人間性を高めようとする前向きな姿勢をもつ。
- オ 教職員はチームであるので、「報告・連絡・相談」を徹底する。事後報告は厳禁。
- カ 教育公務員としての自覚をもって、服務規律の厳正を期す。

### (2) 服務規律等

- ・ 保護者、地域の方、来客に対する親切で丁寧な対応を心掛ける。
- ・ 電話対応では、「鮫小学校、教頭の〇〇です。」と名乗る。

- ・交通ルールの厳守。万が一の場合は速やかに校長に報告。
- ・体罰の禁止(言葉の暴力、廊下に立たせることも厳禁)
- ・子どもに物を取りによこさない。職員室には個人情報がある。机上整理。
- ・授業中にコピーを取らせるために、子どもを職員室によこさない。)
- ・授業中、パソコンで提出文書の作成は慎重、指導へ集中。
- ・緊急事態、けがの場合を除き、職員室に事前の相談もなく子どもを預けない。
- ・校長・教頭への出かけるとき(出張、年休等)の挨拶、次の日の報告。
- ・年休・子の看護休暇等は校長の承認、教頭への報告。
- ・勤務終了は 16:30 遠慮せず帰宅。水曜日はノー残業デー。
- ・校務支援システムの適切かつ確実な運用を心掛け、健康自己管理の入力を忘れずに。
- ・提出文書、校務支援システム掲示板、アンケート、児童朝会、職員朝会等での連絡内容の事前確認し、校長・教頭の承認を得たのち提出、発言、発送、実行する。
- ・各所属団体、研究会からの個人への依頼は、校長に相談後、回答する。
- ・各学年での外部機関との行事、案件等については計画の段階で校長・教頭に相談。
- ・服装、頭髪の色、ひげ、履物等、教員としてふさわしいものに。
- ・ガバットでのメール送信は、校長・教頭へも送信。
- ・学年日より、学級日より定期的に発行。
- ・けが、不登校傾向児童、いじめ、保護者からの苦情に対しては、早期に対応。  
カウンセラー、スクールソーシャルワーカーを活用。  
その日のうちに、家庭訪問または電話連絡。保護者の理解・協力をお願いする。
- ・体調不良の場合は遠慮せずに年次休暇を。健康第一。